

## 令和 7 年度第 2 回米子市社会教育委員の会 議事録

日 時 令和 7 年 1 0 月 2 1 日（火）午後 3 時から午後 4 時 4 5 分

会 場 米子市役所第 2 庁舎 2 階第 2 会議室

出席者

### 【委員（順不同）】

ト蔵久子委員（会長）、内藤英二委員（副会長）、加藤洋子委員、徳永哲郎委員  
今出和史委員、大野公寛委員、湯浅隆司委員、内藤旗彦委員  
（欠席：星野章作委員、安部悟委員、藤原実男委員）

### 【事務局】

教育委員会 : 浦林教育長、長谷川事務局長  
生涯学習課 : 田中課長兼社会教育主事、松永担当課長補佐、佐藤担当課長補佐兼社会教育主事、坂本係長兼社会教育主事、新見主任、前田主任  
地域振興課 : 田中課長（兼務）  
子ども政策課 : 永榮課長、宮中担当課長補佐  
人権政策課 : 松本人権政策監  
文化振興課 : 太田係長  
スポーツ振興課 : 成田課長

## 1 開 会

## 2 教育長あいさつ

## 3 会長挨拶

## 4 報告事項

事務局より、米子市児童文化センター運営委員会へト蔵会長を推薦、米子市図書館協議会委員へ藤原委員を推薦したことを報告した。

## 5 連絡事項

事務局より、（１）鳥取県社会教育振興大会兼社会教育委員研修会、（２）第 47 回中国・四国地区社会教育研究大会について連絡した。その後、鳥取県社会教育課担当者より、令和 9 年度の中国・四国地区社会教育研究大会（鳥取大会）について、社会教育委員への周知及び協力依頼があった。

## 6 協議

「地域づくりにおける社会教育・社会教育委員の役割を考える」

①地域づくりの段階を進めるために必要な要素とは？

②米子市社会教育委員としての具体的にどのように関わるか？

### ③全体共有

社会教育委員で2グループ、関係課職員で1グループを作り、ブレインストーミング・KJ法の手法を用いて協議を行い、最後に各グループからの発表により情報共有を行った。

## ー 協議の概要 ー

### ○社会教育委員 A グループ

・私は人権教育の立場で長年活動してきたが、地域で人権の風がなかなか吹かないなと感じていた。地域を活性化させたいと思い、公民館だよりに毎月コラムを書かせてくださいとお願いして書き続けていると、この前読みましたよと言ってもらい、顔が繋がりと、仲間が広がっていった。

・登下校の見守り活動を勝手に始めた。自分が校長をしているときに地域の皆さんに助けてもらったことから、自分が退職したら恩送りをしようということで始めたこと。最初は不審者扱いされていたが、だんだん顔なじみが増えていき、今ではいろいろな野菜を山ほどお裾分けしてもらえる関係性になれたことが嬉しい。また、この夏はすごく暑く、子どもたちが毎日顔を真っ赤にして下校していたことから、水筒に氷と水を入れて持っていき、子どもたちの頭や腕などにかけてあげたら「命の水だ！」と喜んでくれた。その様子を夏休みの宿題で「下校の時の秘密道具」というタイトルで絵を描いてくれて、感動した。

・こういった出来事があると、地域の中で生きているなど実感するが、そこで社会教育委員というものを考えたときに、まずは自分の思いで動いてみることで、仲間と繋がっていく。そこから新たな人材がみつかり、何かを作り出し、前に進んでいけるのではないかと今は思っている。

・グループで出た意見としては、情報をどんどん発信していこう、難しいことを考えるより、興味関心を高める工夫をちょっとずつでもやっていこうということ。そうすると、必ず手ごたえがある。仲間を増やすには、参加しやすいようにハードルを上げないようにすること。

・これらを踏まえての社会教育委員としての役割は、地域の方々のコーディネート役、つながりづくりのお手伝いをする事だという話にまとまった。

### ○社会教育委員 B グループ

・一つ目の役割は、「楽しい場づくり」。課題解決を目指すというよりは、まずは繋がって楽しくなるようなものを作ることが大前提、大きな役割ではないかということは全員で共通認識を持てた。

・二つ目の役割は、「情報の収集、実態の把握」。特に、社会教育の環境に関わる様々な実態や声を収集していくことが重要。良い環境をつくることで、自然と人が集まったり、自然と人々の能力が発揮されたりするのではないか。また、環境に働きか

ける・環境を整備するということは、社会教育行政や公教育の大事な役割だという話があった。

- ・三つ目の役割は、「方向性・ビジョンを提示する」こと。先ほどの場づくりや環境づくり等、様々な活動をする中で、それがどんなまちづくりに向かうのか、どんな地域のあり方に繋がるのかというような、社会教育に関わるビジョンを描いたり、方向性を言葉にしていくことも社会教育委員の役割であると考えた。

- ・四つ目が、「社会教育を社会に開く」ということ。社会の中には「社会教育」という言葉を使わずとも、「社会教育的な視点」で、「社会教育的な活動」をされている方や組織・団体はたくさんある。これを教育現場だけに閉じずに、それ以外のところに社会教育を開いて、繋がっていくということが我々社会教育委員の使命だと思っている。「楽しそうに活動している人に積極的に会いに行く」というのがわかりやすいキーワードではないかと考えている。

- ・五つ目が、「社会教育に関する専門職の専門性を開発する、あるいは地位を向上する」ということ。まだまだ社会教育士だけで食っていける社会ではないが、とても大事な役割を持っているのが社会教育を支える専門職の方々だと考えている。

#### ○行政職員グループ

- ・行政の視点として、「地域の方々のお手伝い（支援）」をさせていただきたい。

- ・事業の企画については、参加しやすい時間・場所を考慮すること。そして、「社会の要請」と「個人の要望」をバランスよく考慮し、参加者が興味をもって参加できるテーマ設定をしていく必要があることを確認した。また、地域の中で核となる方に引っ張ってもらい、それについていく参画する方が増えていき、だんだんと企画が充実していくという流れをつくるのが大事だということを確認した。これらを踏まえ、地域のためになる取組を、継続できるように行政として支援していくことが求められている。

- ・情報発信については、**SNS**の活用・ポスター・子から親への口コミなど、多面的に発信していく必要がある。

- ・つながりづくりについては、住民にとって重荷にならないような企画・無理なく続けられる企画を考えていくことが大事という意見が出た。また、グループワークを試みたり、共通の目的、スポーツや趣味など、自分の好きなことでつながると強固なつながりになるという意見も出た。

- ・事業への参画については、先進事例の紹介をしたり、意見交換する場の設定をすること。市有施設の利用や、補助金の紹介・支援も行政としてできることである。また、行政で持っている人材の情報を生かして、人と人をつないでいくことも求められている。

#### ○その他意見

- ・「実践知」を収集し、あらゆるところで情報収集をしていくことが必要。社会教育の大会は貴重な情報収集の場なので、積極的に活用していきたい。
- ・公民館や自治会の場合などに「社会教育委員」として出向こうにも、「社会教育」「社会教育委員」についての認知がされていない中では難しい。行政として、地域で「社会教育」の理解が進むように取組を進めてもらいたい。
- ・地域の防災広場をつくり、地域の人が集まれる場所、つながりづくりにつなげるために「防災フェスティバル」を開催して、楽しい場所・気軽に人が集まれる場所を作っていきたいと思って活動している。地域で頑張ってくれる人たちのつながりを作って地域を元気にしたい、こういうことが社会教育委員の役割だと感じた。
- ・以前は公民館職員の会議や研修などに社会教育委員が参加していたことがあり、そこで顔と名前を覚えてもらうことができた。今年度、社会教育委員の顔写真入り名簿の展開はしてもらったが、それだけでは限度がある。公民館職員と交流する場の設定をお願いしたい。

#### ○まとめ

- ・たくさんの議論をしていただいた中で、共通していたのが「つながり」というキーワード。人と人、人と場面、人と機会、これらをつないでいくということが社会教育という考えの中で非常に重要な役割であると再認識させられた。
- ・第1回でお示しした「米子市の社会教育の視点」の図というのは、社会教育はこうだというものではなく、日々いろいろな場面・場所・地域で取り組んでおられる活動を、社会教育という視点で捉えるところということを確認するためのもの、つまり、日々皆さんがしておられることが「社会教育」なのだということを確認するために作った図である。米子市の社会教育行政としては、この図を意識しながら、つながりづくり・ひとづくり・土壌づくりを進めていかないといけない。
- ・本日は行政グループでも話をしてもらったが、いろいろな気づきがあったのではないと思う。来年度の事業に反映してもらえるものと期待している。
- ・社会教育委員と公民館のつながりについてのご指摘について、居住地区と違う公民館など、馴染みのないところには行きづらいということがあれば、生涯学習課で繋ぎをさせていただく。情報発信についても、生涯学習課でまだ不足しているところもあると思う。お気づきのことがあれば対応させていただくので、遠慮なくご連絡いただきたい。

#### 7 その他

- ・特になし

#### 8 閉会

以上